

二〇二六年度

文学研究科入学試験問題

(解答別紙・直接解答)

博士課程前期課程

〔正規学生(一般・推薦)〕

〔特別学生(社会人)〕

〔特別学生(外国人留学生)〕

日本文学日本語学領域

(日本文学・日本語学)

試験科目

専門外国語科目

受験番号

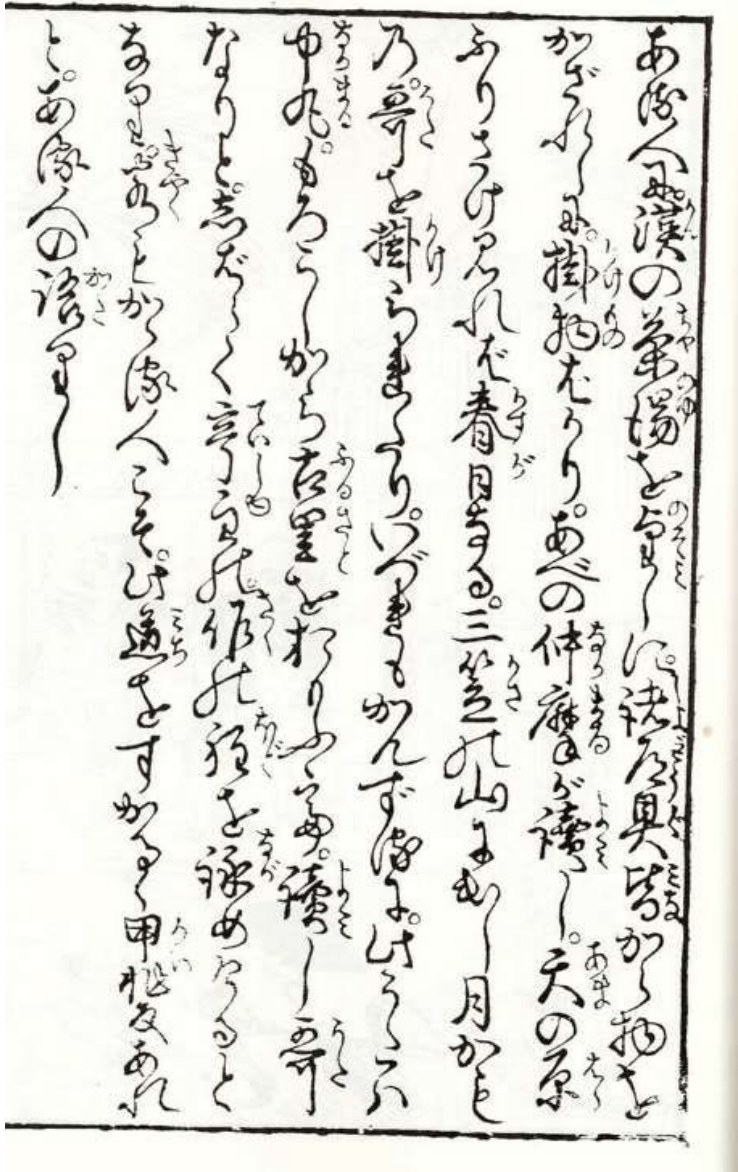
番

次の問題【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅲ】から二題を選び、各々直接解答しなさい。その上で、選択した二枚を提出しなさい。

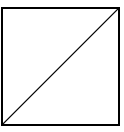
↓
解答記入不可

【Ⅰ】 以下は『西鶴諸国ばなし』巻五の一「灯挑に朝顔」の一節である。(甲)すべて翻字し、設問(乙)について答えなさい。

設問(甲)



設問(乙) 右の文は茶道における亭主の風流あるエピソードを語っている。簡潔に説明せよ。



___ 枚 中

博士課程前期課程

〔正規学生(一般・推薦)〕

〔特別学生(社会人)〕

〔特別学生(外国人留学生)〕

日本文学・日本語学領域

(日本文学・日本語学)

試験科目

専門外国語科目

受験番号

番

解答記入不可

【Ⅱ】「一」～「四」すべて答えなさい。

〔一〕次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

駿河国、*貞長がもとに*興良親王あるよし聞きて、しばし立ち寄り侍りしころ、(中略)忠雲僧正がもとより、いかにもして下りて、Aひなの住まひ見るべきよし申しおこせたりしかども、むなしく月日過ぐし侍りしかば、申しつかはしける、

清見鴻浪の関守ひまもあらばBまつとは告げよ三保の浦風

かくて、またの年の半ばまで住み侍りしかども、さすがまたC我が世へぬべき所にもあらねば、ここをも立ち出で侍らんとせしに、狩野介貞長などやうの者ども、D夜もすがら名残惜しみて盃たびたび侍りしほど、過ぎに仕方、なほ行く末の事まで、二心なきことなど申し集めつつ、はては酔ひ泣きなどせしかば、Eいつのほどよりの馴染みにかとあはれに覚えて、出でさまにその壁に書きおきし、

身をいかに駿河の海の沖の浪よるべなしとて立ちはなれなば

(宗良親王『李花和歌集』)

*貞長……駿河国の武士。南北朝の内乱では南朝方(宗良親王の陣営)に属して戦った。

*興良親王……筆者(宗良親王)の甥にあたる人物。

問一 傍線部A「ひな」、傍線部D「夜もすがら」の意味を記しなさい。

問二 傍線部B「まつ」とあるが、何を待っているのか、次の中から選びなさい。

- ア 興良親王 イ 忠雲僧正 ウ 我(筆者) エ 関守 オ 浦風

問三 傍線部C「我が世へぬべき所にもあらねば」を現代語訳しなさい。

問四 傍線部E「いつのほどよりの馴染みにかとあはれに覚えて」とあるが、このとき筆者はどのようなことを感じたのか、わかりやすく説明しなさい。

〔二〕次の①②を現代語訳しなさい。ただし①の「時鳥」はひらがなに書き直すこと。

① 二声と鳴かばこそあれ時鳥聞かぬになしてなほや待たまし

② 求め給ふらむ物を奉りなむと思ひ給ふれど、今にえこそ見つけ侍らね。

〔三〕次の漢文を書き下し文に直しなさい。

治^レ国之難、在^レ於知^レ賢、而不在^レ自^レ賢

〔四〕次の熟語を新字体に直しなさい。

- ① 缺點 ② 櫻竝木 ③ 即効性 ④ 眞晝 ⑤ 轉寫

一問 A

D

晝

晝

晝

一問

①

一問

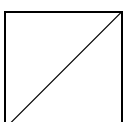
①

②

③

④

⑤



枚中

二〇二六年度

文学研究科入学試験問題

(解答別紙・直接解答)

博士課程前期課程

〔正規学生(一般・推薦)〕

〔特別学生(社会人)〕

〔特別学生(外国人留学生)〕

日本文学・日本語学領域

(日本文学・日本語学)

試験科目

専門外国語科目

受験番号

番

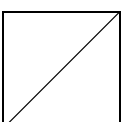
【Ⅲ】以下は『源氏物語』 「若紫」巻、北山で療養していた光源氏を迎えに、友人である頭中将や弁の君が訪れ、にわか合奏が始まる場面である。全訳しなさい。

頭中将、懐なりける笛取り出でて吹きすましたり。弁の君、扇はかなううち鳴らして、「豊浦の寺の西なるや」と謡ふ。人よりは異なる君たちを、源氏の君いといたううちなやみて、岩に寄りゐたまへるは、たぐひなくゆゆしき御ありさまにぞ、何事にも目移るまじかりける。例の、筆簾吹く隨身、笙の笛持たせたる好き者などあり。

↓
解答記入不可

Blank area for writing the answer.

___ 枚 中



二〇二六年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)		
博士課程前期課程	日本文学・日本語学領域	試験科目
〔正規学生(一般)〕 〔特別学生(社会人)〕 〔特別学生(外国人留学生)〕	(日本文学・日本語学)	専門基礎科目
		受験番号
		番

次の甲群三題から一題を選び、乙の一題と合わせ計二題について、別紙解答用紙に答えを記しなさい。

↓
解答記入不可

【甲群―一】

以下の①～⑤から二つを選び、二百字程度で説明しなさい。なお、解答する際には必ず自身が選んだ設問の番号を記すこと。

- ① 『曾根崎心中』について
- ② 『好色一代男』について
- ③ 地本屋について
- ④ 『椿説弓張月』について
- ⑤ 十八世紀の江戸の狂歌について

【甲群―二】

次の①～⑤の出典作品名もしくは作者名を記し、それぞれの作品について五十字以内で解説しなさい。

- ① 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものは。
- ② 人の営み、みな愚かなる中に、さしも危ふき京中の家をつくるとて、財を費やし、心を悩ますことは、すぐれてあぢきなくぞはべる。
- ③ 「心強くも隠れ給へども、神の御しるべはかくこそ尋ね参りたれ」と言ふをみれば、雪の曙なり。
- ④ 年たけてまた越ゆべしと思ひきや命なりけりさ夜の中山
- ⑤ たけき者もつひには滅びぬ。ひとへに風の前の塵に同じ。

【甲群―三】

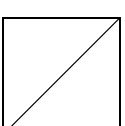
以下の①～⑤から二つを選び、それぞれ二百程度で説明しなさい。なお、解答する際には必ず自身が選んだ設問の番号を記すこと。

- ① 平安文学に登場する僧
- ② 平安文学に描かれた葬送
- ③ 史実における帝と平安文学に描かれた帝の関係性
- ④ 『とりかへばや物語』の男女主人公
- ⑤ 王朝和歌における霞・霧

【乙】

次あげる項目の中から五つを選択して、それぞれ一〇〇字から二〇〇字程度で説明しなさい。

- | | | | |
|--------|-------------|-------|--------|
| 大岡昇平 | 森田思軒 | 野坂昭如 | 岡本かの子 |
| 『女坂』 | 『或る「小倉日記」伝』 | 『武蔵野』 | 『真珠夫人』 |
| 「主婦之友」 | 「思想の科学」 | 「万朝報」 | 「新小説」 |
| 近代の超克 | ルポルタージュ | 写生文 | 第三の新人 |



___ 枚 中

二〇二六年度		文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)	
博士課程前期課程 〔正規学生 (一般)〕	日本文学日本語学領域 (日本文学・日本語学)	試験科目 専門科目	受験番号 番

次の甲群三題から一題を選び、乙の一題と合わせ計二題について、別紙解答用紙に答えを記しなさい。

↓
解答記入不可

【甲群一】
以下について、四百字程度で説明しなさい。

「談林俳諧と松尾芭蕉の関係について」

【甲群一】
中世文学と『伊勢物語』との関係について、具体例を挙げながら論述しなさい。

【甲群一】
平安文学に見られる漢籍の影響について、具体例を挙げながら論述しなさい。

【乙】
近代日本の文学作品において自然はどのように表現されてきたか、その特色の歴史の変遷を、作者や作品を具体的に例示しながら説明しなさい。

____ 枚 中

